

アユの資源状況について

1. 平成24年のアユ産卵状況と資源維持対策

(1) アユ産卵調査

- ・県内の主要河川における昨年のアユ産卵量は7.1億粒で平年比6%

(2) 人工河川によるアユ資源対策

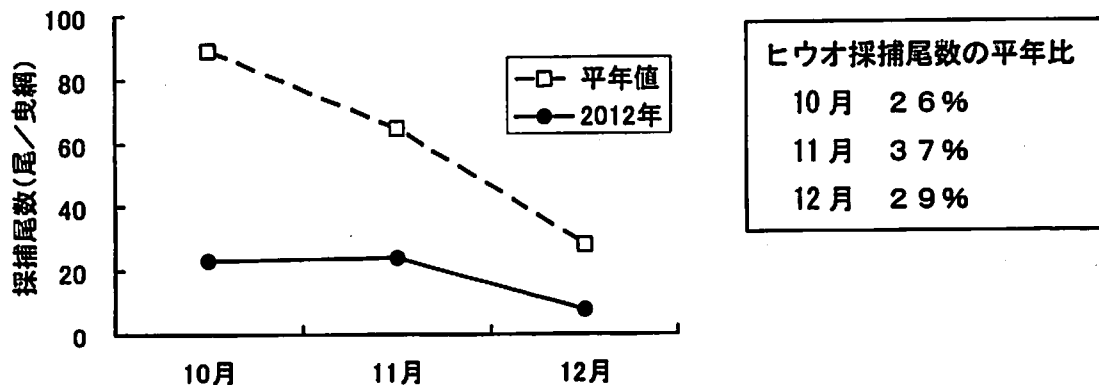
- ①通常放流：9月初旬に人工河川（安曇川、姉川）へ11.5トンの親アユを放流。
放流アユの産卵により22.5億尾のふ化仔魚が琵琶湖へ流下
- ②追加放流：天然河川でアユの産卵が少なかったため、10月15日～26日にかけて7トンの親アユ（淡水養殖組合から購入）を追加放流
親アユの産卵により、10月末から11月中旬にかけて11.5億尾のふ化仔魚が琵琶湖へ流下

(3) 総ふ化仔アユ量

- 天然、人工河川を併せたふ化仔アユの総流下量は48.2億尾で平年比19%
 - ・約300トンの漁獲につながると試算（過去3年アユ漁獲量555～683トン）
 - ・養殖用や河川放流用となるアユ苗の漁獲量は確保されるものと期待（過去3年のアユ苗漁獲量41～100トン）

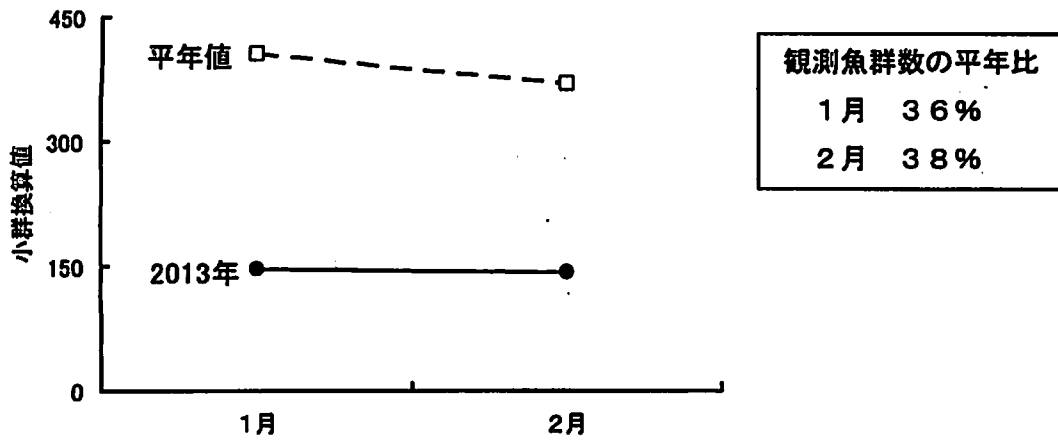
2. 平成25年のアユ資源状況

(1) ヒウオ(アユ稚魚)生息状況調査



◆ヒウオの生息状況は、平年の30%前後で推移した。

(2) アユの魚群分布調査



◆1月、2月に観測された魚群数は平年比30%後半で、ヒウオ生息状況とほぼ同程度であった。

(3) 早期アユの漁獲状況

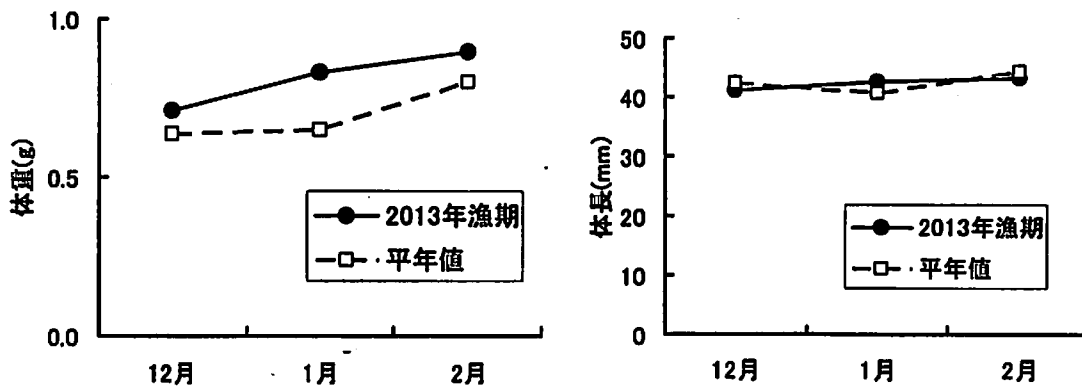
① 12月

・12月1日に始まったエリ漁によるアユ苗の早期漁獲は順調に推移し、12月21日までに注文量の26.8トン_を漁獲して終了。

② 1月以降

・1月10日から再開されたエリ漁によるアユ苗漁獲量は、2月28日までで約4.1トン。昨年比52%（風波で出漁できず）、過去4ヶ年平均と比べると68%。

(4) エリ漁獲アユの体型

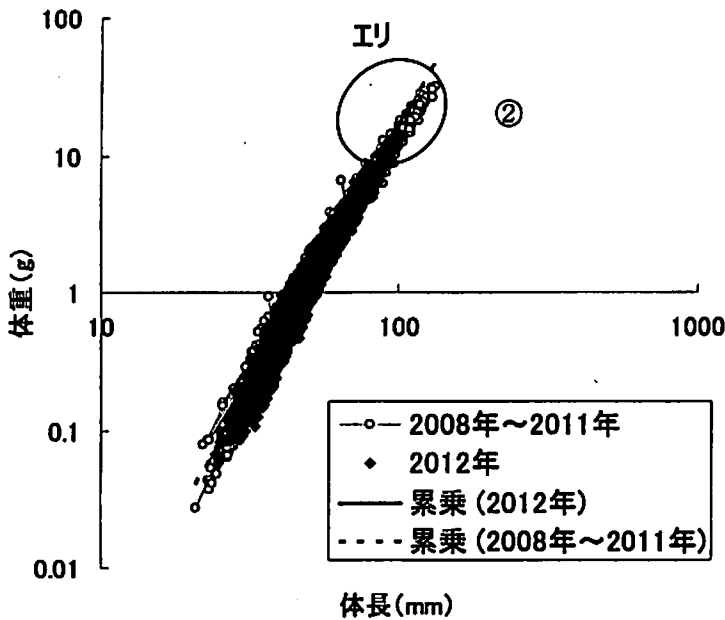
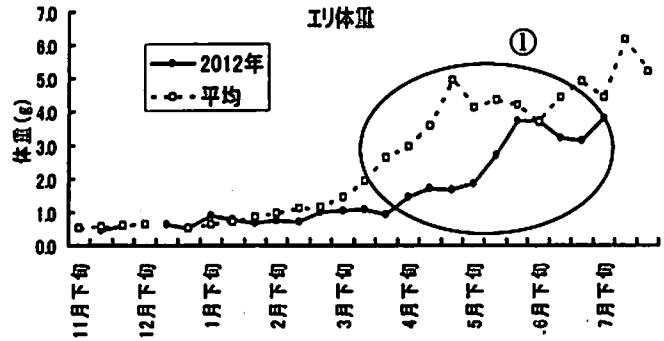
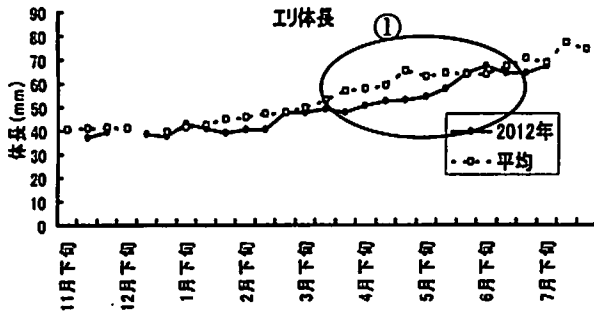


・12月の漁獲開始以降、体重は平年を上回っているが、体長については12月、2月と平年をわずかに下回ったものの、ほぼ平年並みの漁獲体型であった。

3. 平成 24 年アユ産卵量減少要因について

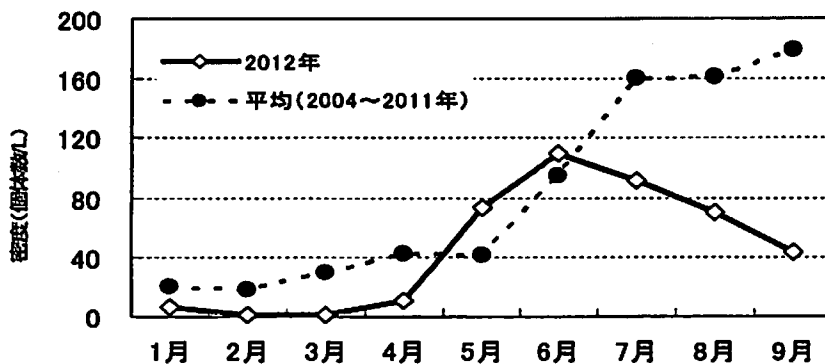
(1) アユの成育状況

①成長について



- ・平成 24 年のアユはシーズンを通して成長が悪かった。
- ・特に 4・5 月に顕著な成長不良がみられた (①)。
- ・体長 10cm を超える大型個体が少なかった (②)。

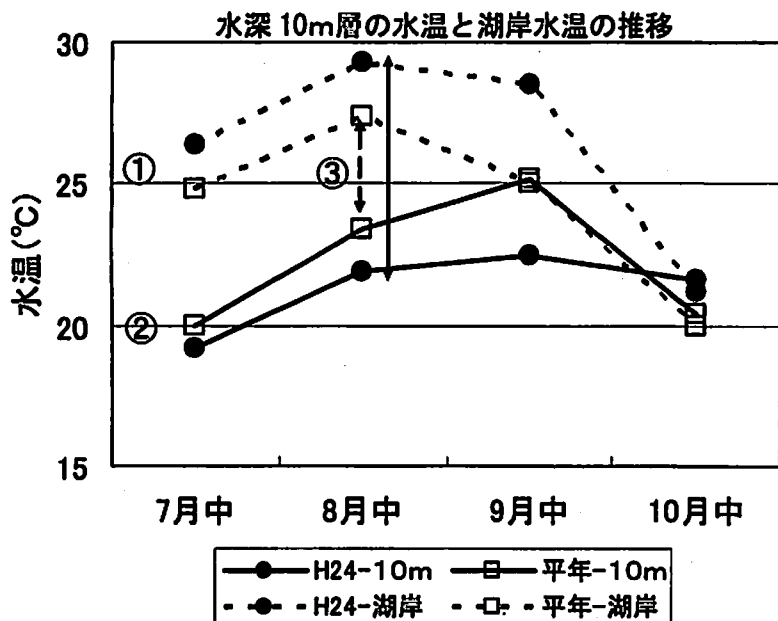
②アユの餌環境 (カプトミジンコ、ケンミジンコ類) について



- ・ 1月から4月にかけてミジンコ類 (カプトミジンコ、ケンミジンコ等) が少なかった。
- ・ 7月から9月にかけて例年なら増加するミジンコ類が少なかった。

◆慢性的エサ不足による成長不良に陥っていたと思われる。

(2) アユの生息水温環境について



- 湖岸水温は7月から10月にかけて、平年に比べて1～3℃高かった(①)。
- 7月から9月にかけてアユの生息水域 10～20m層の水温が平年に比べて1～2℃低かった(②)。
- そのため、遡上に向かうアユにとって平年に比べて水温差が2～5℃拡大していた(③)。

◆湖中と湖岸域(河川)で平年以上の水温差が存在し、これが遡上に対する障壁となった可能性がある。

* 成長不良のアユが、水温障壁によって河川にスムーズに遡上できず、河口周辺で待機している間に、餌不足や体力不足、捕食によって減耗したことが一つの要因と考えられる。